

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02900

研究課題名（和文）統合型英語力養成を目指した多聴レベル指標の開発

研究課題名（英文）Development of an extensive listening scale for improving English proficiency

研究代表者

柴田 里実（Shibata, Satomi）

常葉大学・外国語学部・准教授

研究者番号：80460541

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、多聴レベル指標を開発することで、多読・多聴を促進し、総合的な英語力向上を支援することを目指した。近年、小学校、中学校、高等学校、大学と多様な校種レベルで英語多読は実施されているが、比較的短期間、例えば1学期間や1年間で終了してしまっている事例も数多く報告されている。英語多読は、複数年度、長期に継続させることが重要である。そのためには英語多読の動機づけの維持および学習者自身が自らの多読・多聴力を分析することができ、自律的に教材を選択できることが重要である。そこで、本研究では、長期に英語多読を継続することを前提に、学習者自身が活用することが出来る「多聴・多読支援ツール」の開発を目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、多聴レベル指標の開発することで、英語多読を支援するツールとして活用することが出来、統合型英語力養成が促進されることを目指した。近年、小学校、中学校、高等学校、大学と多様な校種レベルで英語多読は実施されているが、比較的短期間、例えば1学期間や1年間で終了してしまっている事例も数多く報告されている。英語多読が習慣化し生涯学習へとつながること、読むことに加え聴くことを連動させることで、英語多読をより長期に実践できれば、英語力向上が見込まれる。学習者自身が自ら多聴教材を選択できる支援ツールは、学習者の英語多読を促進し、英語を聴くことを習慣化させる手立ての一つとなると期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed at developing an extensive listening scale to promote extensive reading and listening and to support the improvement of English proficiency. In recent years, extensive reading in English has been implemented at various school levels (elementary school, junior high school, high school, and university), but many cases have been reported in which it has been completed in a relatively short period of time, such as one school term or one year. However, it is important to continue reading in English for multiple years and over a long period of time. In order to achieve this goal, it is important for learners to maintain the motivation to read extensively in English, to analyze their own reading and listening ability and to select materials autonomously. Therefore, this study aimed at developing a tool with an extensive listening scale that can be used by learners themselves so that they will continue to read and listen to books extensively over a long period of time.

研究分野：応用言語学 英語教育 外国語教育学

キーワード：英語多読 第二言語習得 リスニング 英語多聴 自律学習 動機づけ 学習者コミュニティ 自律学習支援ツール

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本国内外の多読の現状

近年、日本国内で英語多読は全国的に広く実施されている。学校教育では、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学と校種を問わず、実施している事例も数多く報告されている。また、私塾等でも顕著な成果を報告している事例は数多く報告されている。例えば、古川(2010)、高瀬(2010)は、各学校の事例を具体的に紹介している。国外での多読の普及については、2011年に、The First Extensive Reading World Congress として、初めて多読に特化した国際学会が開催され、第1回目の京都産業大学を皮切りに、韓国、アラブ首長国連邦、台湾と世界各国での多読に関する取り組みの研究がなされている。

(2) 本研究での事例及び問題の所在

本研究の研究者チームは2010年度から、英語多読を大学レベルで実施し(柴田2015)、英米語学科に所属する1年生を対象に年間100万語を読ませることを目標に進めてきた。2010年度が多読導入当初は、学習者の年間多読量は15万語程度であったが、本研究開始当初の2016年には、習熟度別にクラスが分けられているため、クラスによって差はあるが、1年間(2学期間)の平均読了語数が初級クラスで60万語、上級クラスでは80万語まで増加した。100万語を読了することは、一部の優秀な学生だけが成し遂げる快挙ではなく、誰もが、一定の条件が揃えば、達成することが可能な目標であることが明らかとなった。主な条件として、例えば、以下の4点があげられる。

多読記録による多読状況の可視化

適切な指導(語数のチェック、選書指導、多読阻害要因への対処法等)

十分な多読教材への容易なアクセス

英語多読への動機づけ維持を支援する学習者コミュニティの形成

2010年以来、アクションリサーチとして、改善を重ね、これらの条件に留意し、英語多読指導を実施した結果、本研究開始当初の2016年の時点で、英語多読により、外部試験であるTOEIC等にも成果が表れ始めていた。その一方で、複数年度継続することは容易ではないこと、1年間(大学という教育機関では2学期間)の英語多読では、英語母語話者向けの児童書やYA文学、一般書までを読めるレベルにはならず、多くの場合、学習者向けの英語リーディング教材であるGraded Readers(出版社ごとにレベルや方法は異なるが、文法や語彙がレベルごとに制限されている書籍、以下GR)を読んで、英語多読を終了してしまうという問題点が明らかとなった。

(3) オーディオブックの役割

複数年継続することが困難であること、GRを1年間読んで、英語多読を終了してしまう事などの問題点が明らかとなったが、上級クラス、英語力向上に関して特に動機づけの高い学習者、英語多読をとりわけ好む学習者は、複数年に渡り継続することが出来ており、その際にオーディオブックを活用していることが観察された。しかし、オーディオブックの選書は、通常の紙媒体での書籍以上に選書が困難であり、自律的に学習ができていないことが観察された。したがって、自律的な多読活動の継続および読書レベルを押し上げるオーディオブックの活用を促進するためには、学習者が自ら適切な選書が出来るように多聴教材の選書ツールが必要であることが示唆された。

2. 研究の目的

英語多読を複数年継続することで英語力が向上できると想定し、長期に継続すること、その過程における英語多読書籍のレベルをあげるための補助教材としてのオーディオブックの活用を促進するための支援ツールの開発を目的とした。学習者自身が自らの英語力および多読力を分析し、適切なオーディオブックを選書できるような支援ツールの開発を試みた。

3. 研究の方法

(1) 研究1: 学習者は何を読んでいるのか

本研究チームが2010年度から実施してきた英語多読の実践の中で、上級レベルまで到達した事例を調査し、実際に学習者が読了した書籍を、貸出記録、学習者の多読記録、インタビュー、質問紙から多面的に調査した。

(2) 研究2: 何が多聴教材を活用する阻害要因となっているのか

英語多読オーディオブック等の多聴教材の使用状況を調査した。さらに、多聴教材を使用しない学習者、使用を中止した学習者に対する質問紙調査、インタビュー調査から、選書に関わる項目および多聴実施の阻害要因の抽出を試みた。

(3) 研究3：英語多聴・多読支援ツールの開発

研究1および2を踏まえ、習熟度別および読了語数別に多読支援ツールを開発することを試みた。英語多読を始め、1年以内の学習者にとって有益な情報と、2年目以降の複数年間多読を継続する上で必要となる情報をリフレクティブプラクティスにより分類し、学習者が自律的に使用可能な支援ツールの作成を試みた。初級用、上級用として2種類作成し、使用した結果、さらに分類する必要があることが示唆されたため、さらに目的別に細分化した支援ツールの作成を試みた。

4. 研究成果

(1) 研究1：学習者は何を読んでいるのか

多聴教材を活用した実績のある学習者の多読記録および聞き取り調査から、書籍をリスト化し、上位100冊を多面的に調査した。その結果、多聴教材の選書の上位要因として、以下の4点が明らかとなった。

朗読速度WPM(1分間の朗読語数)が150語以上

朗読時間が1時間以上

朗読者の性別が女性

児童書およびYA文学などの母語話者向けのオーディオブック

さらに、英語母語話者向けの書籍に苦手意識を持っていたり、1冊が1万語を超える母語話者向けの書籍を読むことに抵抗を感じていたりする学習者は、多聴選書上位要因を満たす多聴教材(オーディオブック)を活用することで、1時間以上継続して読むため、あるいは1万語以上の語数の書籍を読むための支援となることが示唆された。

(2) 研究2：何が多聴教材を活用する阻害要因となっているのか

多聴教材を使用しない学習者、使用を中止した学習者に対する質問紙調査、インタビュー調査、観察ノートから、多聴教材の選出、多聴実施を阻害する要因を抽出したところ、26項目が抽出された。さらに26項目をカテゴリー化したところ、以下の6つに分類された。

リスニング媒体の形式

速度およびその調整

朗読者の特徴

総朗読時間

多読書籍としての難易度および関心度

その他の補助音声の有無

学習者は、英語多読を実施する過程で、多聴教材を選択する際に、英語多読の書籍以上に選書基準および阻害要因が関係し、自律的に英語多聴教材を選書することが容易ではないことが明らかとなった。

例えば、リスニング媒体の形式(付属CD、別売りCD、オンライン付属ダウンロード無料版、ダウンロード有料版、付属MP3、サブスクリプション)はリスニング媒体へのアクセシビリティ(教材入手の難しさ、持ち運びの難しさ、媒体の形式による物理的な難しさ、媒体の形式による心理的な難しさ、書籍の有無、Wi-Fi環境が必要か否か)に大きく影響し、多聴の阻害要因のひとつとして顕著に表れた。本研究を開始した当初の2016年度は、オーディオブック等の多聴教材の貸借にCDを活用することが可能であった。CDプレーヤーを所持していなくてもコンピューター等で利用が可能であり、形式がCDであることは阻害要因ではなかったが、コンピューターの軽量化や多様化が進み、CDを聴くことが出来ない環境である学生が本研究の期間内に急増した。音楽等でもCDのサブスクリプションが急速に普及し、日本レコード協会(2022)によると、2012年には、215,169,000枚であったのに対し、2021年には、103,552,000枚と10年間で50%減少した。また書籍に特化すると、本研究開始当初の2016年度、2017年度はオーディオブックとしてCDが入手できたが、2018年度以降、急激にダウンロード版への移行が進み、CDの入手が困難となった。ダウンロード版のオーディオブックは個人として購入し活用する上では、非常に便利であるが、学習者が費用負担を強いられること、学校教育機関で購入した場合は貸し出しができないこと、本研究の教育機関ではデジタル教材の購入が認められていないことなどの研究上の問題が阻害要因となった。さらに、2020年度のコロナ禍以降、オンライン化が急激に進み、多聴教材の利用状況は大きく変化したことは、学習者の自律的な多聴学習の阻害要因となった。

また、朗読者の特徴としては、次の10項目が抽出された。

声のトーン

朗読者の性別

朗読者の声色の年齢

朗読者1名

朗読者1名で登場人物ごとに声色が変化

朗読者2名以上

朗読者2名以上でドラマ仕立て

英語の特徴(国、地域)

朗読者の朗読レベル

朗読者の知名度

朗読音声には、様々な特徴があり、学習者が聞きやすいと感じる、あるいは聞きたいと感じるか否かは多様であり、学習者自身で適切な多聴教材(オーディオブック)を自律的に選書することは容易ではないことが明らかとなった。

(3) 研究3：英語多聴・多読支援ツールの開発

研究1および2を踏まえ、習熟度別および読了語数別に多読支援ツールを開発することを試みた。英語多読を始め、1年以内の学習者にとって有益な情報と、2年目以降の複数年間多読を継続する上で必要となる情報をリフレクティブプラクティスにより分類し、学習者が自律的に使用可能な支援ツールの作成を試みた。第一に、初級用、上級用として2種類作成し、多読・多聴支援ツールとして使用した結果、さらに細分化する必要があることが示唆された。そこで目的別に細分化した支援ツール、4種類の作成を試みた。本研究を通して、作成した支援ツールは、学習者および多読・多聴指導者へ広く配布し、多読・多聴の自律学習の支援に活用されることが期待される。

引用文献

- 古川昭夫(2010)『英語多読法 やさしい本で始めれば使える英語は必ず身につく!』東京：小学館
- 日本レコード協会(2022)「生産実績 過去10年間 オーディオレコード CD合計」
https://www.riaj.or.jp/f/data/annual/ar_cd.html (2022年6月20日閲覧)
- 柴田里実(2015)「大学での英語多読実践で年間100万語を読ませる「教室文化」」日本多読学会紀要第8巻、p51-
- 高瀬敦子(2010)『英語多読・多聴指導マニュアル』東京：大修館

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 柴田里実、良知恵美子	4. 巻 10
2. 論文標題 日本人大学生の英語多読における阻害要因：読書教育と脳科学の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本多読学会紀要	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 12件/うち国際学会 8件）

1. 発表者名 柴田里実
2. 発表標題 オンラインでのフィードバックの試み（ライティング・多読・英会話での事例紹介）
3. 学会等名 外国語教育メディア学会中部秋季大会オンライン（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satomi, Shibata
2. 発表標題 Why Is It So Difficult to Read Books in English?
3. 学会等名 JALT Online2020（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satomi, Shibata, Emiko Rachi
2. 発表標題 What is Necessary for EFL Learners to Build up L2 Reading Habits?
3. 学会等名 The Fifth World Congress on Extensive Reading, Taichung, Taiwan（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi, Shibata, Emiko Rachi
2. 発表標題 Does Online Extensive Reading Application Increase the Amount EFL Students Read?
3. 学会等名 The Fifth World Congress on Extensive Reading, Taichung, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi, Shibata
2. 発表標題 Encouraging Extensive Listening
3. 学会等名 The Fifth World Congress on Extensive Reading, Taichung, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi, Shibata
2. 発表標題 How Do College Students Read, Online or Paper?
3. 学会等名 2019 JALT 45th Annual International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Shibata, Emiko Rachi
2. 発表標題 Does Online Extensive Reading Application Increase the Amount EFL Students Read?
3. 学会等名 The Extensive Reading 5th World Congress (ERWC5) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Shibata, Emiko Rachi
2. 発表標題 What is Necessary for EFL Learners to Build up L2 Reading Habits?
3. 学会等名 The Extensive Reading 5th World Congress (ERWC5) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Shibata
2. 発表標題 How Do College Students Read, Online or Paper?
3. 学会等名 全国語学教育学会・第45回年次国際大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田里実
2. 発表標題 シンポジウム「多読の可能性を探る」
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 (LET) 第 89 回春季中部支部研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 良知恵美子、柴田里実
2. 発表標題 学習者用ブックレットを活用した英語多読支援の利点
3. 学会等名 日本多読学会全国年次大会(2016) (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satomi Shibata
2. 発表標題 An Extensive Reading Oasis for One Million Words
3. 学会等名 JALT (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 柴田里実、良知恵美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 29
3. 書名 英語多読ガイド初級編	

1. 著者名 柴田里実、良知恵美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 49
3. 書名 英語多読ガイド中級から上級編	

1. 著者名 柴田里実、良知恵美子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 59
3. 書名 Extensive Reading ~ 無限に広がる魅力的な絵本の世界を多読を通して楽しむ ~	

1. 著者名 柴田里実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 58
3. 書名 Extensive Reading失敗しない選書のコツ	

1. 著者名 柴田里実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 49
3. 書名 Extensive Reading and Listening 聞きながら読む多読	

1. 著者名 柴田里実、良知恵美子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 篠原印刷所	5. 総ページ数 119
3. 書名 Extensive Reading世界の読者と英語で本の世界を楽しもう！～年間100万語は、誰でも読める～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	良知 恵美子 (Rachi Emiko) (10230856)	常葉大学・外国語学部・教授 (33801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------